

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人 木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふねA館		
所在地	栃木県栃木市岩舟町静1281-1		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気与生活できるような環境を整え、洗濯畳みや食器拭きなど家庭で行っていたことを継続して行えるよう支援している。 ・ホールからは中庭の木々や草木を眺めることができ、季節の変化を感じることができる。居室やホールなど居住空間は毎日職員が掃除を行い、清潔で過ごしやすい環境を提供している。 ・ドライブや外食会などの外出だけではなく、同法人事業所で行われるミニコンサートや誕生会に参加し、ボランティアや他事業所利用者との交流なども多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人が運営しており、同法人の協力医院や老人保健施設との連携を密にしながら、常勤看護師の配置や同法人の理学療法士の関わりにより、日常の健康管理や医療面において利用者や家族の安全安心につなげている。室内は清潔と整理整頓に心がけ、光や温湿度等も適度に調整しているほか、中庭の日本庭園の木々や草花を手入れし、季節の移ろいを楽しめるようにしている。職員は利用者一人ひとりの人間性を重視し、優しく丁寧な言葉かけを心がけ、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、明るく楽しい生活が送れるよう支援に努めている。室内での体操やゲーム、歌、リハビリなどを毎日とり入れることで、利用者の体力や筋力の維持にも努めている。近隣への散歩や買い物、外食、周辺の観光地などへの外出も支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、毎朝、申し送りの際に全員で唱和することで、意識向上を図り、理念に沿った支援に励んでいる。	理念を事業所内に掲示し、毎朝唱和するなど、理念の認識と共有に努め、利用者を尊重し、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、安心して居心地良く過ごせるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動に参加したり、運営推進会議や消防訓練、納涼祭などへの参加を民生委員や近隣住民に呼びかけたりしている。	自治会に加入し、地域との関わりを深めるよう努めており、事業所行事等の周知について回覧板を活用することもある。納涼祭には家族や地域の人達の参加や協力を得ている。傾聴ボランティア等の訪問や避難訓練に近隣の人達の参加がある。	地域との交流を更に深めるため、文化祭等の地域行事への参加や各種ボランティアの活用、子供たちとの交流などの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や行事等に地域の人々が参加した時は、ホーム内を案内したり、広報紙に情報を載せたりすることで広く情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席し2ヶ月に1回取り組みを報告している。消防署、駐在所も時折参加し、それぞれの立場から意見を伺い支援に反映させている。	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員の参加により2ヶ月に1回開催している。消防署員や駐在所員の随時の参加もある。参加者からの意見等はその後利用支援に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にお呼びし、互いに情報や意見を伝えている。また、必要に応じて入居者の近況を報告するなど協力し合い円滑に物事が進むように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に出席しており、運営状況を伝えると共に福祉情報や意見を受けている。必要に応じ報告・相談等をしたり、助言を受けるなど、日頃から協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目の前の通りは交通量が多い為、玄関は家族の了解を得て施錠しているが、外に出る機会を多く作っている。また、ベッド柵の付け方等にも十分注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、研修や勉強会などにより全職員の理解が深まるよう努め、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。チェックシートを活用し、職員同士で確認し合うことも行っている。安全のため玄関は施錠しているが、外気浴など利用者が外に出る機会を多く設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会などで虐待が日常化しないように注意喚起するとともに職員同士声をかけ合っている。毎月虐待防止のチェックシートを用いることで意識を高め防止につなげている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性の高い入居者がおり、包括支援センターと協力しながら、それらを活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	具体的に事態を想定し説明するなど利用者や家族の立場になって納得していただけるよう努め、解約の際も十分に話し合い、受け入れの手配などできる限りの対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議を通じて意見を交換する機会を設けている。また苦情相談窓口があることをお知らせし、いただいた意見は運営に活かしている。	利用者への傾聴に努め、何気ない会話からも要望等を汲み取るよう努めている。家族の面会時や利用料の支払い時には意見、要望等を聞くよう心がけている。請求書に利用者の状況を記した手紙を同封し、意見・要望等を引き出し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年一人ひとりから事業計画について意見を募り代表者へ伝えている。また月ごとの定例会など率直に発言できる場を設けている。代表者がアンケートを通じて職員の要望を聞くこともある。	日常業務の中でその都度職員から気付きや提案等があり、毎月の定例会議においても意見等を聞く機会としている。法人のホームページで職員からの提案等を募ることもある。ケアに関することや業務改善の意見が出され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者に対し、その努力と向上心を認め表彰している。また各自の能力を活かした仕事を任せ、やりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修など外部の研修を受ける機会がある。また法人全体及びグループホーム単体としても勉強会を行い、知識が深まるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や行事など同法人内の他事業所と関わる機会が多く、お互いに様々な情報を交換、共有し合い業務に活かしている。また、研修の参加等で外部とのネットワークも広げている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況や身体状況を職員全員で把握し、意見などを聞いてケアプランを作成している。特に最初の一ヶ月は本人が不安なく過ごせる様、十分に関わりを持ち関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの説明等で家族の要望等に耳を傾けながら不安に思っていることを相談できる雰囲気づくりに努めている。来苑された際に近況報告をし、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や要望、家族の事情などあらゆる角度から最も優先すべきことは何か判断し、他のサービスがふさわしいとなれば家族に説明を行い、スムーズに利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物やおやつ作りなどできること、得意なことを見つけ、単なる作業としてではなくコミュニケーションを図りながら行うことで生活に張り合いが持てるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の呼びかけや月一の手紙で普段の様子を伝え、本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人の他サービスを利用している友人、知人がいれば面会できる機会を作り、一緒にレクリエーションを楽しめるよう手配している。	友人等の面会時には部屋でゆっくりと歓談できるよう配慮している。行きつけの理髪店の利用やお墓参りのほか、お盆や正月での帰宅など、家族の協力を得ながら馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や特徴を生かし、職員が取り持つことで様々な場面で入居者同士の交流が生まれるようにしている。またトラブルが起きないように座席など工夫している。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居されても同法人を利用していれば行事などを通じて再会している。また、亡くなられた場合には弔問に行き、家族から相談があれば少しでも応えられるよう精神面においても配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との関わりの中で些細な言動、表情を見逃さず記録にまとめ、全職員が共有し意識して対応することで、何を望んでいるのかを聞き出したり、推察している。	日頃から利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努め、記録したものを全職員が共有し対応している。外出や食事の希望など、一人ひとりの思いにそった支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との面談で様々なエピソードを拾い上げ生活歴を読み解いている。また過去にサービスを受けていれば当時を知る人から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経緯や会話のやりとりなど、その時の様子がイメージできるように詳細な記録をとり、定例会や申し送りで職員間で現状の認識に差異がないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職員、医療関係者をそれぞれの立場から課題を見つめ、ケアプランをより良いものになっている。また状況に変化があれば見直しを行っている。	本人・家族の希望や意見を取り入れながら、介護職員や医師及び理学療法士との話し合いのもと、現状に即した介護計画を作成している。3か月ごとのモニタリングにより援助目標の達成度を確認し、状況変化に応じ随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カテゴリーごとに分けられた記録を作成し、様々な方向から入居者の現状を把握できるようにしている。またケアプランに関する出来事の一つにまとめ成果が分かるようにし、今後の見直しの材料にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の他事業所と連携し、医療行為の協力を仰ぐなど状況の変化に素早く対応できるようにしている。また個人のニーズに合わせて機能訓練を取り入れるなどしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方に避難訓練に参加して頂き、地域の方と関わる機会を設けている。その他、傾聴ボランティアや理髪奉仕の来苑などで豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に同法人の医師が往診しているが本人や家族の意向を尊重し、他の医療機関への受診もある。同法人においても症状に応じて、それぞれの専門医が診察するなど適切な医療の提供に努めている。	往診と職員付き添いの通院が可能となるため、協力医の受診を希望する利用者が多い。受診状況や服薬等の医療情報は面談票などで家族と共有し、適切な医療を受けられるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化や気づきを看護職に報告し、その結果を記録に残すことで、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院や家族とこまめに連絡を取り合い容態の変化を把握し、退院後のケアに備えている。また緊急搬送の際、すぐに受け入れてもらえるよう特定の病院と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に延命治療について医師が家族と面談し要望を確認している。また重度化した場合には家族と話し合いを重ね適切な対応ができるようにしている。	重度化した場合等の指針を整備し、利用開始時に説明し意向を確認している。状況変化に応じて家族との話し合いにより、同法人の老人保健施設への移行を支援するなど、適切な対応に努めている。看取りの希望に対応するため、看護師による勉強会等を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師と連携して、いかなる場合においても連絡が取れるようにし、介護職員も独自に勉強会を行ったり、マニュアルを作成したりと急変時に備えている。また救急隊員からAEDなど直接指導を受ける機会もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いもと、あらゆる場合を想定した訓練を行っている。自治会長や民生委員に訓練の参加を呼びかけたり、災害などのときに協力が得られるよう地域住民に広報活動を行っている。	消防署指導の訓練のほか、3ヵ月ごとに時間帯や出火場所等の想定を変えた避難訓練を実施し、全職員が安全な対応が行えるように備えている。近隣住民の参加があり、緊急連絡網の整備や備蓄も行っている。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や特徴を踏まえ、人間性を認め最もふさわしい支援が出来るよう心がけている。また安全面を考慮しながら立ち入り過ぎず適度な距離を保つようにもしている。	その人に合った呼び名や丁寧な言葉かけを心がけ、利用者の人間性を重視する対応に努めている。トイレ誘導時のさりげない声かけ、居室のノックの励行など、誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの準備など職員が問いかけたり、促したりと、出来る範囲で自分で選ぶ、決めるといった意欲を引き出す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースが乱れ悪影響が出ないように規則正しい生活を基本としているが、無理強いせず可能な限り本人の望みに応えられるよう調整など行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来てパーマやカラーリングなどにも対応している。また出かける際、化粧のお手伝いをしたり、納涼祭には浴衣をすすめたりと普段と違った気分が味わえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつなど入居者と一緒に作ったり、食器拭きをしていただくことでコミュニケーションの時間を作っている。また外食会や出前を利用し、好きな物を食べられる機会もある。	配食業者の食材により職員が調理しており、きざみ食など利用者の状況に合わせた食事形態に配慮している。月2回のおやつ作りや弁当、行事食、外食などは利用者の楽しみとなっている。利用者と職員と一緒に食事し、食器拭きなどを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや塩分量が計算された献立を使用し、毎食の摂取量を記録している。食事形態や食器類など個人に合わせ少しでも自分で摂れるよう工夫し、体調により食事が難しい時は栄養補助食品にて対応することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎晩、義歯の洗浄・消毒をするとともに入居者の状態に応じて口腔ケアを行っている。また食前にうがいや口の体操をすることで誤嚥予防や清潔保持に努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数や時間を記録し傾向が分かるようにしている。また頻尿・残尿といったそれぞれの特徴を踏まえ本人の負担も考慮に入れ、介助方法やRHパンツ・パットの使用を減らしている。	排泄記録表により利用者個々の排泄パターンを把握している。トイレでの排泄を基本としながら、夜間はポータブルトイレを活用するなど、利用者の状況に配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きをよくするとされる運動を取り入れている。便秘気味の方にはヤクルトやヨーグルトをお出ししたり、医師の指示により漢方薬を服用するなど無理なく排便できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯やペース、洗身の仕方など考慮し、他入居者とのバランスを取りながら可能な限り要望に答えられるようにしている。また脱衣室の温度調節にも気を配り、冬至にはゆず湯にしたりと快適に入浴できるようにしている。	本人の入浴状況等を考慮した上で、ほかの利用者と調整しながら、希望に沿った対応をしている。ゆず湯にしたり、良い香りのボディクリームを使うなど、入浴を楽しめるよう支援している。浴室の温度にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクリエーションや機能訓練を行い、夜間安眠できるようにしている。入居者の状態や体調を見て起床の時間を遅らせたり、昼寝を促したりしている。寝付けない方には気分転換を図るなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬の説明書をファイルし現在内服している薬を素早く確認できるようにしている。医師、薬剤師といつでも連絡できる体制となっており、変更時は特に注意し、適切な服薬ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や掃除など入居者の認知症の具合や体調に合わせてできることを手伝っていたり、また本人のやりたいことを探り能力が発揮できるよう環境を整えるなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は玄関先に出たり、散歩や買い物、ドライブや外食会へ出かけている。また、自宅への外出だけでなく墓参りなど家族の協力も得て支援している。	玄関先での外気浴や散歩、買い物、外食会など、日常的に戸外に出る機会を設けており、周辺の観光地や道の駅などにも出かけている。お盆での墓参りや正月の帰宅など、家族の協力を得て支援している。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣いとして職員が家族より預かり管理しているが、家族の了解を得て少額のお金を所持されている方もいる。一緒に買い物に出かけることがあれば、好きな物を本人が支払える手助けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族や知人と電話ができるようにしている。さらにレクリエーションの一環として家族へ向けて年賀状や暑中お見舞いを書いていただくことで家族と面会とは違った形での交流も図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明をこまめに調整したり、自然光や外の空気が感じられるよう窓やカーテンを開けたりと細やかな対応を心がけている。また季節に合わせて装飾を変え同じ建物でも新鮮な印象をもたらす工夫をしている。	四季の移ろいを感じることができるよう、中庭の木々や草花を手入れしている。室内は清潔を心がけ、温度や湿度も適度に調整している。ソファや掘り炬燵を配し、談話したり寛げるよう配慮している。壁には利用者の写真や作品を飾り、見た目の楽しさや生活感を感じさせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席だけでなくテレビ前にソファを置き広く自由に過ごせるようにしてある。入居者同士気兼ねなく話ができるようスペースや時間を設けるなどの配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れたものを好む場合が多い為、洗面道具や食器など家族に持って来ていただいている。また家族の写真や飾りやお気に入りの物を置くことにより心安らぐ空間となるようにしている。	エアコンや洗面台等が備え付けられている。使い慣れた洗面用具や衣装ケース等、身近な物のほか、家族の写真や好みの物を置き、自宅での生活と変わらず、心安らぐ生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室につまずく危険性があるものを置かないようにしている。また分かりやすいようトイレや洗面所の表示を大きくしたり、居室前にそれぞれの写真を貼るなど工夫し、安心・安全な暮らしを心がけている。		